

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	環境創造学部環境創造学科 Faculty of Social- Human Environmentology
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	講義・演習・実験等がバランスよく配置されている。また履修科目登録の上限を設定している（2013 年度の新カリから 44 単位を上限）。また入門ゼミに必ず入る形となっているばかりでなく、2 年からゼミが必修化されているため、学生に何かあっても誰かが対応できる形となっている。そして入門ゼミおよび 2 年生のゼミにおいては、学生の主体的学習を促すため、ゼミ発表会を 12 月半ばに開催している。
4-3-2	シラバス（各授業科目の詳細な授業計画）が全学共通の書式によって書かれており、2013 年度、教務委員会においてチェックを実施し、今年度も同様の予定である。学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となっている。また、授業評価について、ワークショップで検証した。
4-3-3	各教員の裁量において適確に行われている。授業内容・方法とシラバスとの整合性について、各教員が、初回の授業で学生にシラバスの全容を紹介し、その後の授業展開と評価は、各教員の裁量において適確に行われている。
4-3-4	教育研究ワークショップを月 1 回実施し、出席率、分析力、発表力、コミュニケーション能力などに関する成績評価を実施するように教員同士が、話し合う機会をもっている。 今後、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしていくように、その検証プロセスを適切に機能させるよう FD 活動を行って教育の質的保証を高めていく。

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	シラバスに基づいて授業が展開されているかどうか、教員一人ひとりが意識的に振り返りを行っている。
4-3-3	成績の評価と単位認定に関して、教授会で話し合った。特に GPA 制度の導入について、数名の教員は非常勤先の大学の講義ですでに GPA を導入しており、学生の学習状況を GPA という数値で明らかにするメリットとデメリットについて意見交換を行った。その結果、今後さらに議論を継続していくことになった。
4-3-4	都市環境コース、福祉環境コース、環境マネジメントコースという 3 つのコースに分かれているように、本学部の教員の専門的研究分野は、幅広く極めて学際的な学部である。相互にその専門性を理解し共有しあう特別の努力が必要であり、教育研究ワークショップの位置づけが大切であることを、全教員が認識するようになった。

【改善すべき事項】

4-3-1	全教員がシラバスに関して、初回の授業で周知し、確認し、シラバスにそった授業の展開について、問題を克服し、真剣に取り組む必要がある。10 人以下の小クラスを受け持つ教科と 190 名近い大教室で行っている授業もあり、それぞれの教育内容と環境に合わせた適切な授業の展開と成績評価ができるようなシラバスの在り方を検討する必要がある。 ・授業における効果的な図書館の利用について検討したい。
4-3-2	
4-3-3	成績評価と単位認定は適切に行われているかどうか、スランプに陥っている学生をどのように指導するかなど、教員間でさらに検証する必要がある。
4-3-4	成績評価に関して、学生たちがどのようにしていかなる分析と研究を行ってきたかを、ラーニング・ポートフォリオや振り

返りシートに記入し、学びの過程と分析力、問題解決能力を「見える化」する努力が必要である。

Ⅲ 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

教授会の議事録、教育研究ワークショップ、教務委員会議事録、『履修の手引き』、大学の HP。

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	授業評価の方法を教育研究ワークショップで、意見交換を行い、相互の方法論を検証する。	授業評価を議題とするワークショップの開催（1 回以上）	→				
14 年度 目標	授業評価のワークショップでの検証を重ねていく	授業評価を議題とするワークショップの開催（月 1 回以上を実施）	→				
	・新しい試みとして、研究補助員の協力を得て、文章の書き方をアドバイスする「ライティング・カフェ」を運営することに決定し、毎週実施し、その効果を検証する。		→				